

地域包括ケアシステム及び地域医療構想を支えるマネジメント手法

社会科学部 社会科学研究科 筒井 孝子

キーワード

地域包括ケアシステム、地域医療構想、チェンジマネジメント、マネジドケア

研究概要

わが国で期待されている地域包括ケアシステムを構築していくための制度、組織、専門職らの連携が十分でない場合は、当該地域において、良い変化を起こすために臨床・サービスレベルにおいて、それぞれのプログラムを実施するデザインとマネジメントが求められている。

現在、地域包括ケアシステムに関わる人々の間でのビジョンの共有（規範的統合）を前提としたマネジメント手法の一つであるチェンジマネジメントに着目し、さまざまなテーマ（認知症支援、セルフマネジメント、入退院支援、質の評価など）で、自治体や医療機関、民間企業を多様な主体で展開するための方法論の検討を進めている。

アピールポイント

多様な主体による業務を効率よく統合させるためには、ヘルスケアシステム内の治療や療養プロセスの管理が必須であり、具体的には、産業的なモデル（フローチャート化、業務プロセスのリエンジニアリングなど）が求められています。このモデルを、様々な現場で活用するため、様々な手法やフィールドでの実証実験を試みています。

応用分野

自治体や医療機関、民間企業を主体として展開するさまざまなテーマの地域包括ケアシステム構築／地域医療構想の推進
 (cf. 認知症支援、セルフマネジメント、入退院支援、質の評価など)

チェンジマネジメントのステップ例
 (認知症高齢者への対応をテーマとして)